

令和5年度

チーム星峯西小学校で取り組む

EdTech・教育の情報化(2023)

「確かな学力」を育む

これからの学習指導システムの構築

～アナログとデジタルの学習指導の融合～

今後の実践構想編

令和5年9月1日(金)

鹿児島市立星峯西小学校

校長 谷口源太郎

「確かな学力」を育むこれからの学習指導の構築
～アナログとデジタルによる学習指導の融合を目指して～

すべての教科領域で情報活用能力を基盤にして育成する

（授業以外）
補充指導

関連

授業改善

付け

家庭学習

関連付け

関連付け

デジタル学習指導（学習者用デジタル教科書、タブレット端末、デジタルドリル、AI教材、ロイロノート、テレビ会議システム等）

アナログ学習指導（紙の教科書、ドリル、教科用ノート、家庭学習ノート等）

R5年度研究で想定される研究内容(案)

【R4年度研究で積み残された課題】

① 低学年におけるタブレット端末の活用法

→R5.2月に低学年にiPadがそろった。全学年の系統的な指導が可能となる。

② 特別支援教育におけるタブレット端末の活用法

→知的障害、情緒障害学級等での効果的な活用法は未開拓の分野である。

③ 算数科以外での反転授業の実践→⑥ 家庭学習課題の内容

④ 総合的な学習でのタブレット端末の活用法

→具体的な実践事例が少ない教科領域である。

→探求的な学習(課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現)

⑤ 特別活動でのタブレット端末の活用法

→児童会活動、委員会活動、児童集会、学校行事、クラブ活動等での活用法

→子どもたちが学校生活で日常的に使える機会が少ない。

⑥ 家庭への日常的な持ち帰り→③ 家庭学習課題の内容

→家庭学習課題(宿題)の与え方(基礎基本を培う家庭学習ノートとの併用)

→長期休業中は持ち帰っているが、日常的な持ち帰りはまだである。

⑦ タイピングの系統的な指導方法

→他教科との関連性を踏まえた系統的な指導計画は作られていない状況

指での入力、タッチペン入力、フリック入力、キーボード入力(かな、ローマ字)

**令和5年度(2023)
今後の実践計画
(2学期以降)**

◆研究1【授業改善】の実践イメージ

※主体的・対話的で深い学びを実現する授業

※アナログとデジタルによる学習指導の融合

※新規：未開拓の教科領域等での授業づくり

※新規：様々な教科領域等での反転授業

- ① 各学年(低・中・高)におけるタブレット端末を活用できる学習活動はどのようなものがある？
- ② 課題解決学習の基本的な学習過程に応じたロイロノート、デジタルドリル等の有効な活用法
【学習過程】つかむ→見通す→調べる・考える→深める→まとめる→つなぐ
- ③ 各教科・領域の学習場面におけるロイロノート、デジタルドリル等の有効な活用法
【学習場面】一斉学習、個別学習、協働学習

◆研究2【補充指導】の実践イメージ

※新規：3,4年算数科少人数指導＋タブレット端末の活用（デジタルドリルの活用）

※新規：1,2年におけるデジタルドリルの活用

①**朝学習**：ベーシックタイム（15分）におけるデジタルドリルの活用法

②**土曜授業**：パワーアップタイム（45分）におけるデジタルドリルの活用法

◆そもそも補充指導の目的は何か？

「基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育むこと」

＝全員に出す「**共通課題**」と本人の意欲や学習状況に応じて進める「**自主課題**」から構成される。

※アナログ（プリント等）学習とデジタル（デジタルドリル）学習の比重は？

※学年の発達段階で使い分けた方がベターか？

※定着場面、問題練習場面で使い分け方があるのか？

◆研究3【家庭学習】の実践イメージ

※新規：日常的な持ち帰りと課題内容

※新規：家庭における協働学習の可能性

→日常的な持ち帰りはいつから始める？

→個別学習の課題内容と協働学習の課題内容

→家庭学習ノートを調べる業務・添削業務の軽減

①**基礎・基本の定着**：家庭学習ノートとタブレット端末（デジタルドリル等）を組み合わせた漢字、計算指導等

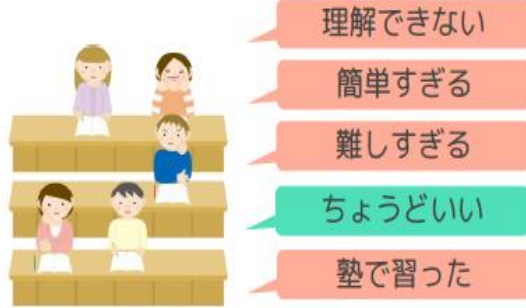
②**反転授業**：タブレット端末の持ち帰りによる家庭での予習からの授業（反転授業）**算数科以外の教科で実践**

◆そもそも家庭学習の目的は何か？

学習習慣を確立させること、「**基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育む**」=全員に出す「**共通課題**」の宿題と本人の意欲や学習状況に応じて進める「**自主学習**」から構成される。

これからの学習指導はこう進化していく

これまでの学習指導



全員同じ内容・問題数に
取り組んでいる

児童生徒にとって意味のない
学習時間となってしまう
可能性がある

- ①TT指導(量)
- ②少人数指導(量)
- ③授業改善(質)
- ④学力補充指導(量)
- ⑤家庭学習(量・質)等

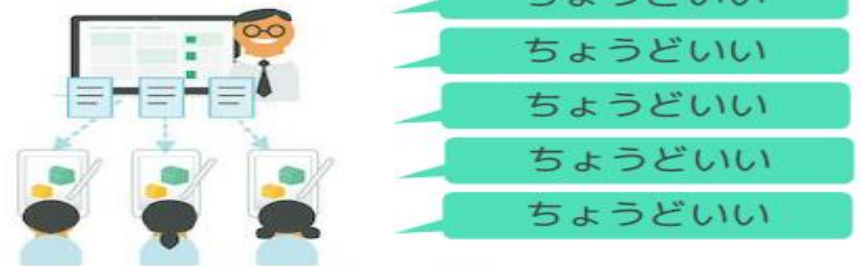
※個別最適な学び(①指導の個別化、②学習の個性化)、協働的な学びの一体的な充実の実現に向けた具体策をどう立案し、推進していくか？

→主体的・対話的で深い学び

- ※35人学級の段階的導入(量)～R7まで
- ※小高学年教科担任制の導入(質)
- ※デジタルドリルなどAI教材の活用(量・質)

これからの学習指導

「アダプティブ・ラーニング」=適応学習



児童生徒それぞれに適切な
内容・問題数に取り組める

一人ひとりに意味のある
学習時間が提供できる

R5年度実践に関する参考資料

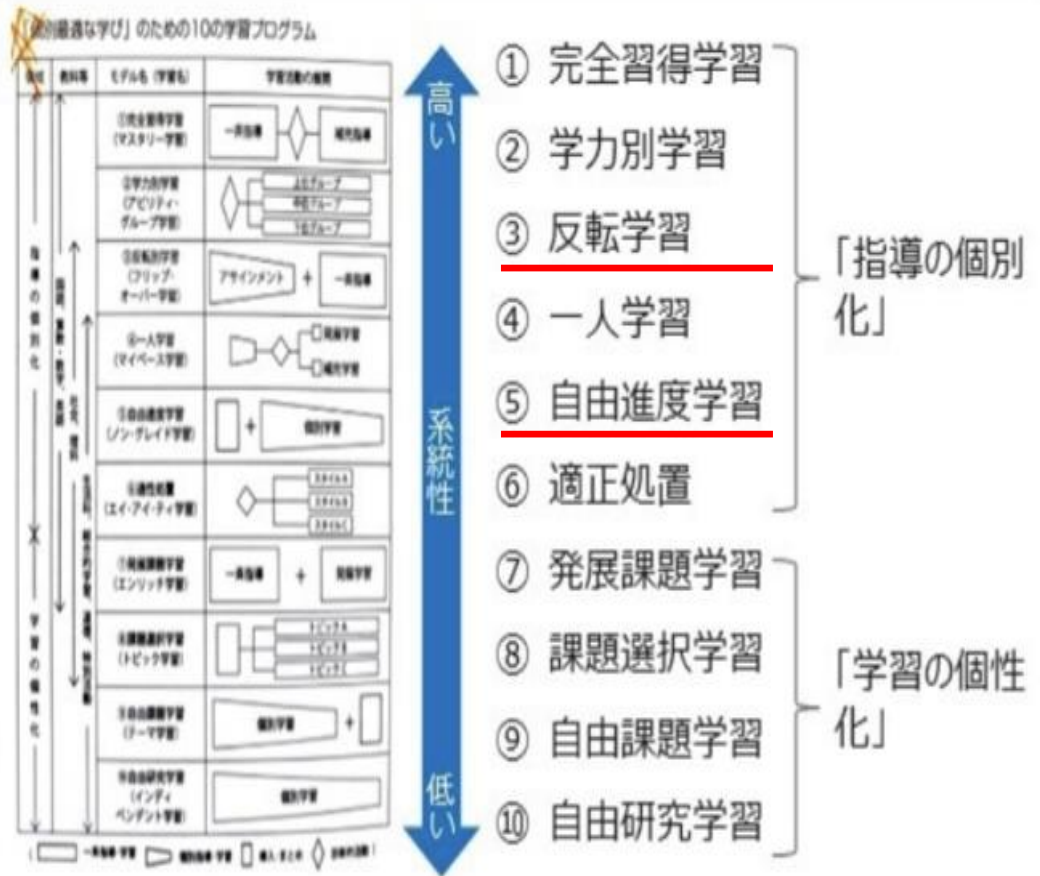
参考.子どもの特性(個人差)を考えれば、学習の個別化はむしろ合理的なやり方

過去100年間で多くの実践や研究がなされており、弊社コンサルタントの実践と併せて十分に実現可能

子どもたちの個人差

- ① 学力差 (到達度)
 - ② 学習時間差
 - ③ 学習スタイル (適性)
 - ④ 興味・関心差
 - ⑤ 生活経験差
- 「指導の個別化」
- 「学習の個性化」

学びの個別化



出所:「個別最適な学び」のための「新しい」授業を創る (加藤幸次) より

R5年度実践に関する参考資料

ICTの文具化に向けて - 戸田市版SAMRモデル -

SAMRモデル (Ruben.R.Puentedura 2010) とは、ICTが授業にどのような影響を与えるのかを示す尺度でありSAMRの4文字のアクロニムによりいくつかの解釈がある。戸田市では以下のように捉え、令和4年度においては市内全校でA段階を当たり前に、M段階の実践の創出を推進し、引き続き、児童生徒の「学びと愛用」のPCとしてICTを文具化した活用を目指す。



※各段階(例)は一例であり、前後の段階においても行われることがある。ただし、各段階間の学びの質には差異がある。

教具的活用 教師が活用の指示 → 活用場面を子供と考える → 活用場面を子供が決める 文具的活用

情報モラル 心情規範・他律的・同一・自制 → → → 行動規範・自律的・多様・活用 デジタルシチズンシップ

Digitization

Digitalization

Digital Transformation

R5年度実践計画案(実施時期、教科領域、内容等)

学年部	授業(タブレット活用)	授業以外(補充指導) 朝学習、土曜授業	家庭学習(タブレット 端末の持ち帰り)	反転授業・その他
記入例 ○年部	実践:○月 国語科 単元名「 」(説明文)	実践:1月末 朝の活動 「2学期に学習した漢字」	実践:○月 学習課題 「ローマ字の書き取り」	実践:○月 社会科 反転授業 単元名「 」
1年部	○	○	○	<p>①いつ、②だれが、③どの単元等で:教科名、補充指導、家庭学習等で</p> <p>④何を工夫して:どのような工夫をして活用すれば効果的か ※活用方法の有効性・妥当性を明らかにするための実践 ※個人レベルの実践も可能</p> <p>【研修計画】 4/17 本年度研究の概要説明 5/15 研究授業のポイント(学向委) 6/26 研究授業・授業研究 7/21 ICT研修 7/31 ICT研修 8/21 ICT研修 9/25 研究授業のポイント説明 10/16 研究授業・授業研究 10/30 ICT研修 2/19 研修のまとめと来年度研究について</p>
2年部	○	○	○	
3年部	○	○	○	
4年部	○	○	○	
5年部	○			<p>【今年度予定の研究授業】</p> <p>◆新採1年目 2年新堂教諭(教科、道徳、特活) 4年岩下教諭(教科、道徳、特活)</p> <p>◆新採2年目 6年相原教諭(教科・領域等) 1年宮下教諭(")</p> <p>◆新採3年目 5年今村教諭(教科・領域等)</p>
6年部	○			
特支部	○			

↓デジタルドリル活用
算数全学年使用可能

タブレット端末の持ち帰り可

終